

「コロナ禍における訪問介護従事者の業務負担・ストレスや  
就労意識に関する調査」

とりまとめ報告書【概要版】

令和5（2023）年3月

一般財団法人 長寿社会開発センター



## 1. 背景と目的

2020（令和2）年1月に、わが国で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、我々国民は数度の緊急事態宣言や新しい生活様式といった日常生活の変容が余儀なくされている。

新型コロナウイルス感染症の影響は、高齢者や障害者等の生活を支える各種サービスにも波及し、事業の縮小（自粛）、介護従事者の感染や濃厚接触者認定等により、人材の確保も困難を来した。

これまでの間、厚生労働省からは、新型コロナウイルス感染症に関連した通知が連日のように発出され、訪問介護をはじめとした介護サービス事業所では、日々その対応に追われることとなった。

こうした未曾有の新型コロナウイルス感染症の拡大の中において、訪問介護従事者の業務負担・ストレスや就労意識に変化が生じた事が推察される。

新型コロナウイルス感染症の罹患者数は増減を繰り返し完全な収束をみないところであるが、先般「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更（令和5年2月10日）が示された。変異株が出現するなどの特段の事情が生じない限り、同年5月8日から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について、感染症法上の新型インフルエンザ等感染症に該当しないものとし、5類感染症に位置づけることとした。

今後、再び変異株が出現するなど不測の事態が惹起されることを懸念し、新型コロナウイルス感染症の流行開始前である2020（令和2）年1月以前と、2022（令和4）年7～8月時点における訪問介護従事者の業務負担感・ストレスの感じ方や就労意識の変化を把握することを目的に調査を行った。

## 2. 実施方法等

### 1) 調査対象

- ・ 調査実施期間中に訪問介護事業所に勤務する訪問介護従事者であって、かつ2020（令和2）年1月以前より同じ事業所で勤務する者（「身体介護」「生活援助」の双方を業務として経験していること）。
- ・ 訪問介護員、サービス提供責任者、管理者の別は問わない。
- ・ 常勤、非常勤の別は問わない。

### 2) 調査方法

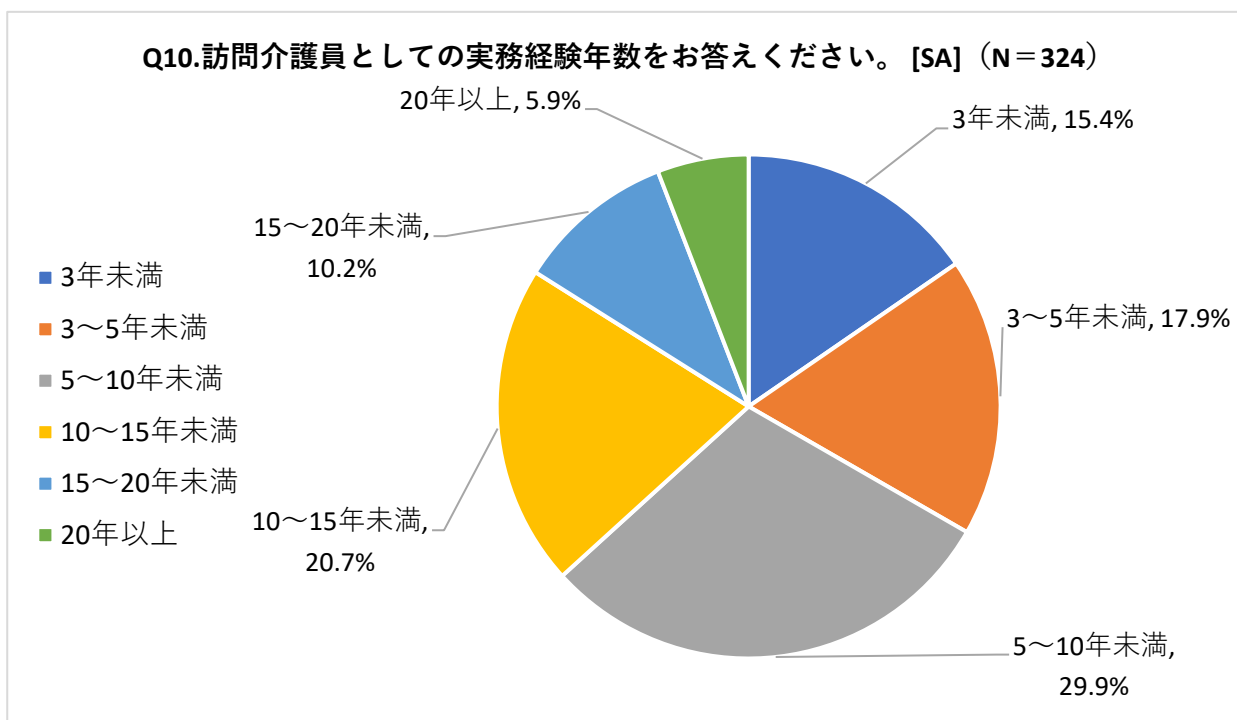
- ・ Web調査会社に登録している調査対象者を対象に、Web調査で実施。
- ・ 調査期間は、令和4（2022）年12月23日～12月26日。
- ・ 有効回答者数 324件（調査協力同意者）

### 3. 調査結果概要

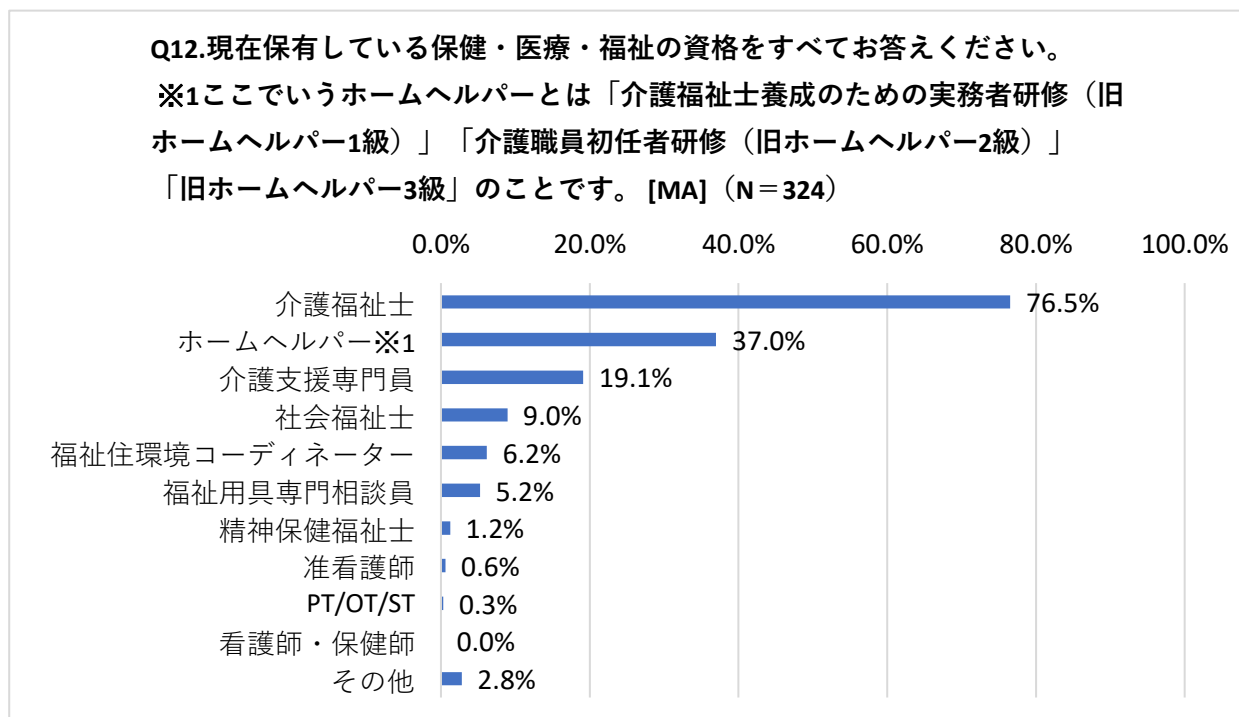
#### (1) 実務経験年数、保有資格

訪問介護員としての実務経験年数は「5～10年未満」が29.9%と最も多かった（図1）。保有している資格としては介護福祉士が76.5%と最も多かったが、中には介護支援専門員（19.1%）、社会福祉士（9.0%）の資格を有する者もいた（図2）。〔設問10.12〕

(図1)



(図2)

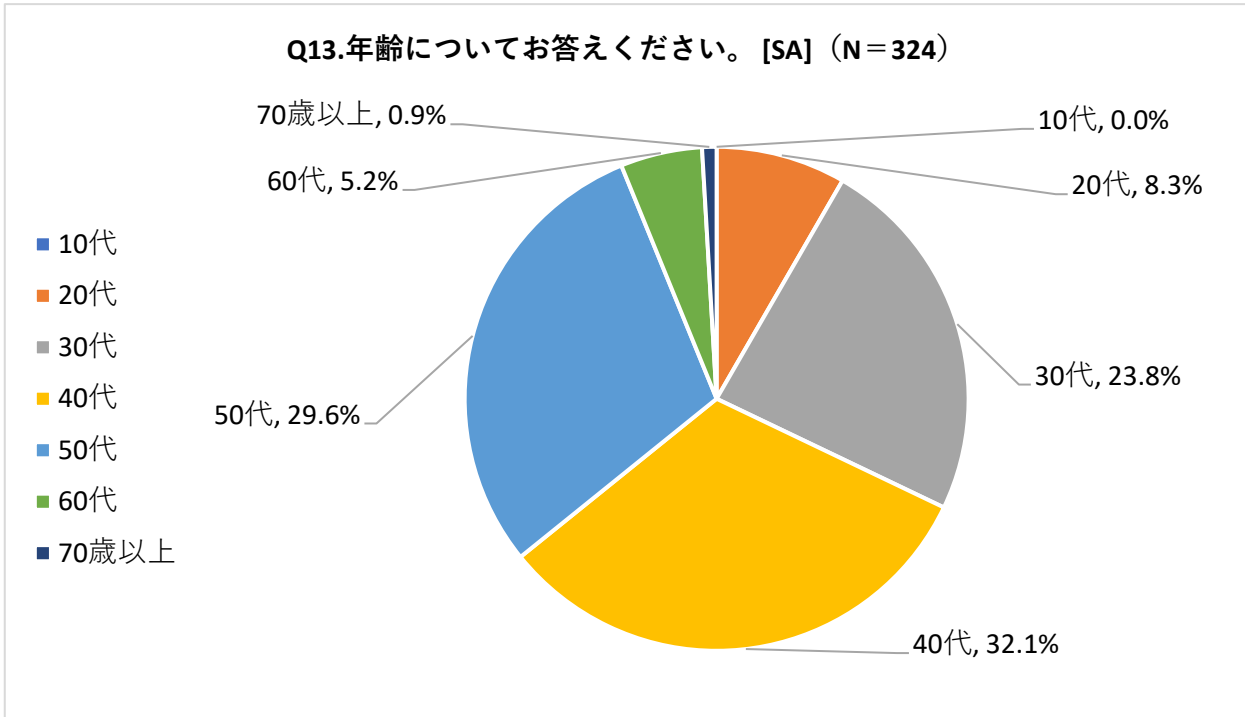


**(2) 年齢、直前の就労状況**

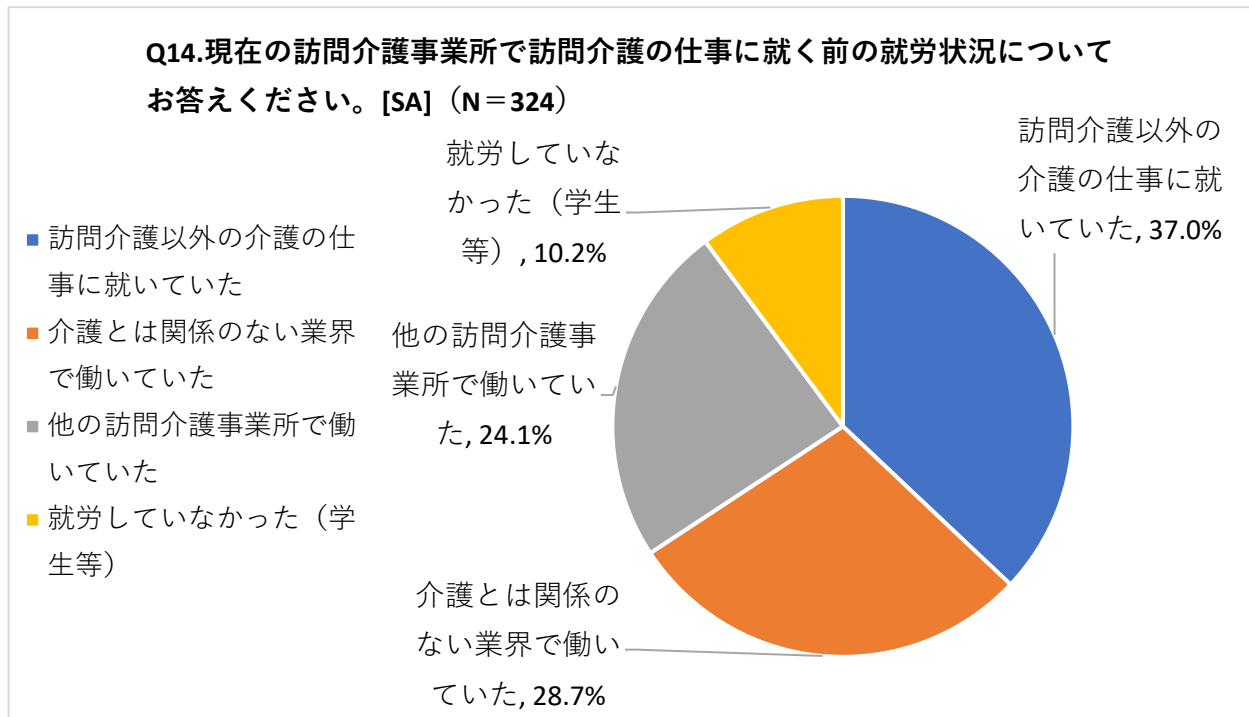
年齢に関しては、40代、50代で約6割を占めている（図3）。

訪問介護に就く前の就労状況を見てみると、介護とは関係ない業界で働いていた者は28.7%、学生等未就労者は10.2%と全体の約4割が介護業界以外からの入職であった（図4）。[設問13.14]

（図3）



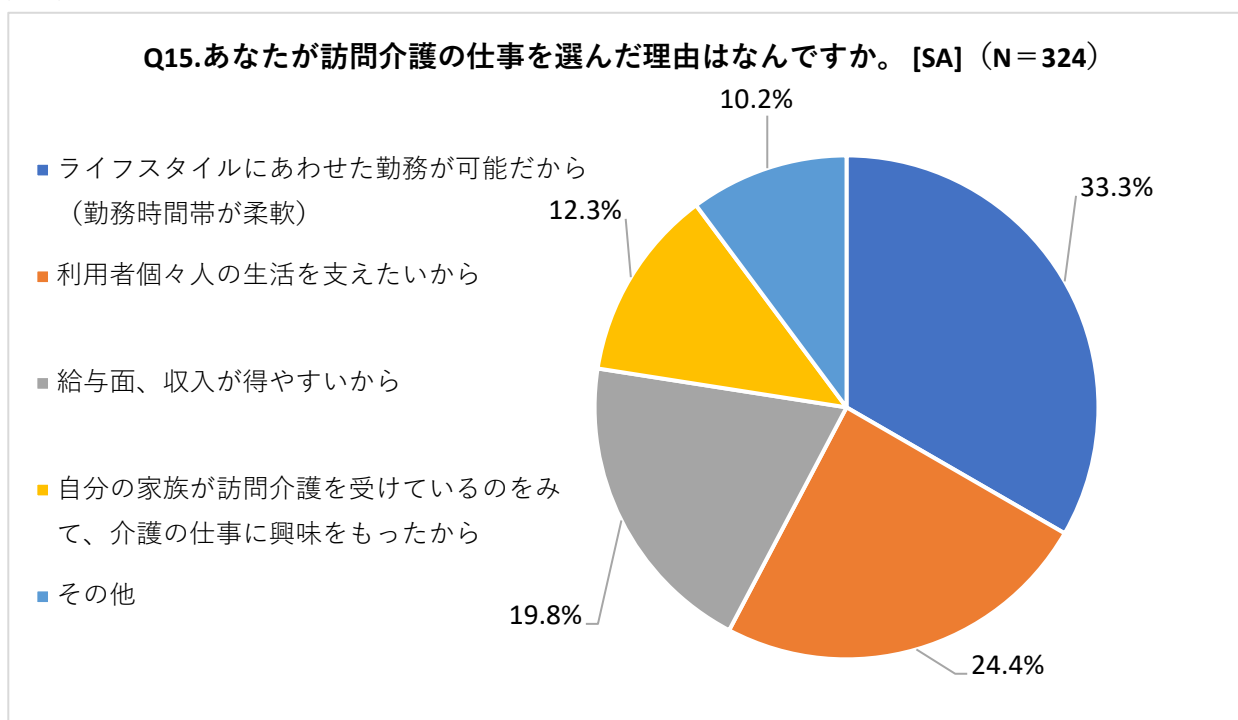
（図4）



### (3) 訪問介護の仕事を選んだ理由

訪問介護の仕事を選んだ理由としては、「ライフスタイルにあわせた勤務が可能」という回答が33.3%、「利用者個々人の生活を支えたい」が24.4%となっている（図5）。[設問15]

(図5)



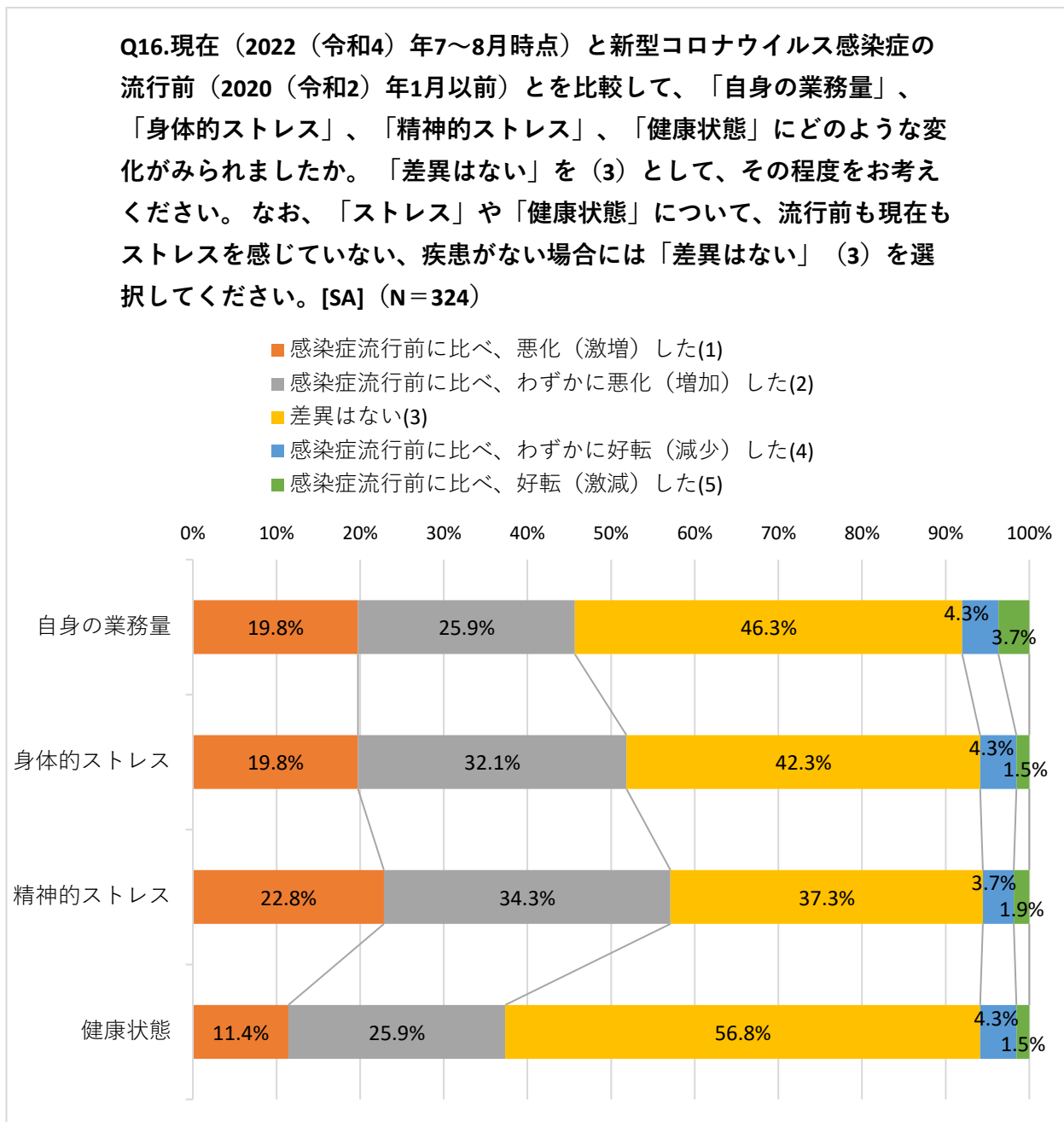
**(4) 「自身の業務量」、「身体的ストレス」、「精神的ストレス」、「健康状態」の変化**

「自身の業務量」、「身体的ストレス」、「精神的ストレス」、「健康状態」の4項目に関する感染症流行前後の変化は、各項目とも「差異はない」が多くを占めていた(図6)。しかし、「悪化(激増)」「わずかに悪化(増加)」を合わせると「健康状態」以外の項目では約5割が悪化を示している。特に「身体的ストレス」「精神的ストレス」に関しては、「悪化(激増)」「わずかに悪化(増加)」を合わせた割合は「差異はない」より割合が多くなっている。

「好転(激減)」「わずかに好転(減少)」に関しては、4項目ともそれぞれ5%未満となっている。

上記からも感染症の拡大は、業務量やストレスに関して負の影響を与え、身体的・精神的ストレスに関しては特に大きな影響を与えたと考えられる。[設問16]

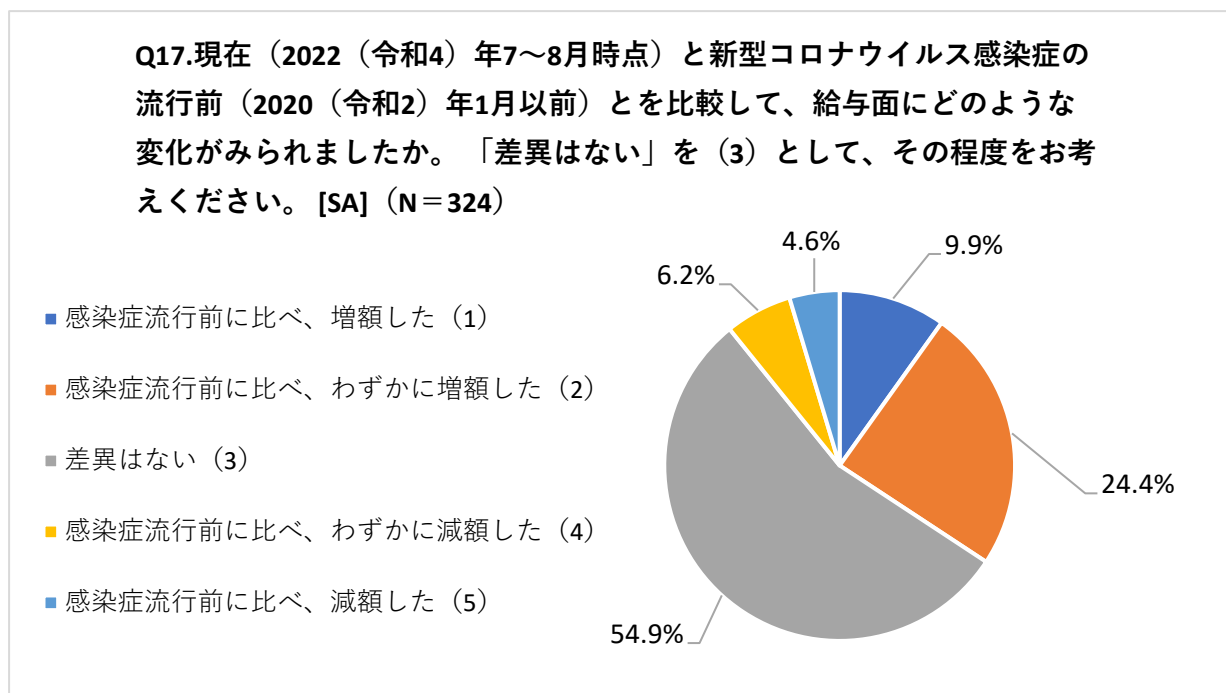
(図6)



## (5) 給与面の変化

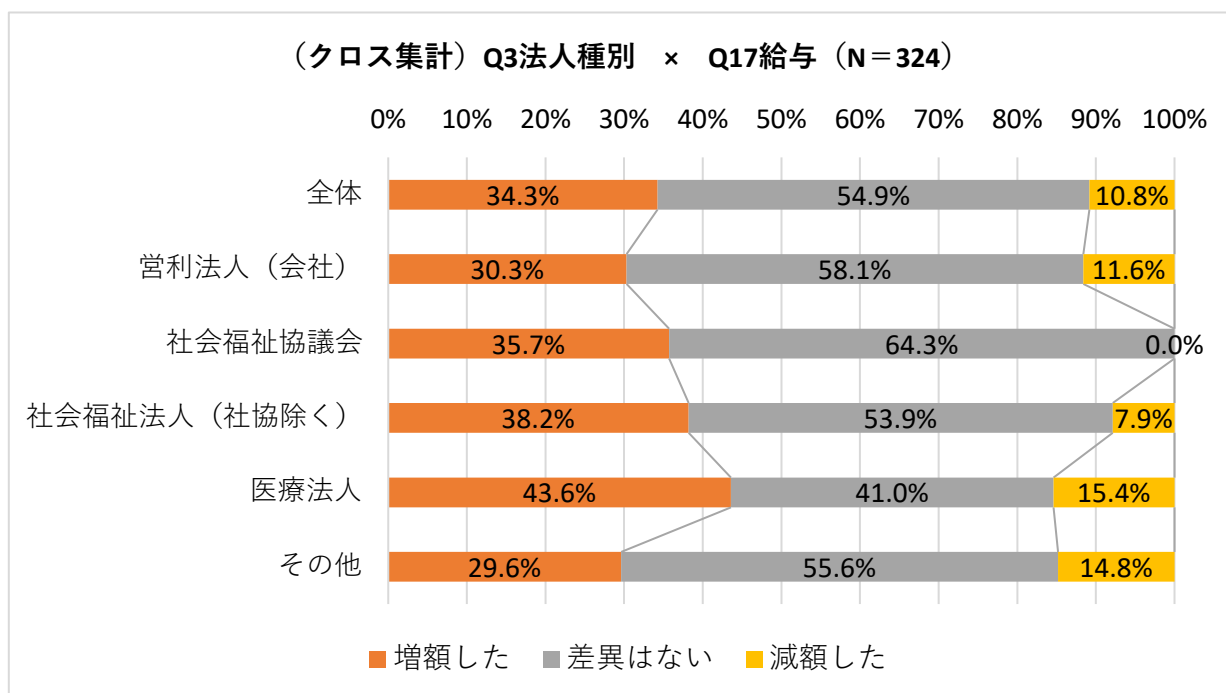
「給与面」に関しては「差異がない」が54.9%ともっとも多かったが、「増額した」「わずかに増額した」を合わせると34.3%となっている（図7）。法人種別では「医療法人」のみが「差異がない」より「増額した」が最も高く43.6%となっている（図8）。事業所規模で「増額した」を見てみると「31人以上」が最も高く41.3%になっている。一方で減額した事業所をみると「～10人」の規模の事業所では17.8%と最も高くなっている（図9）。〔設問17〕

(図7)

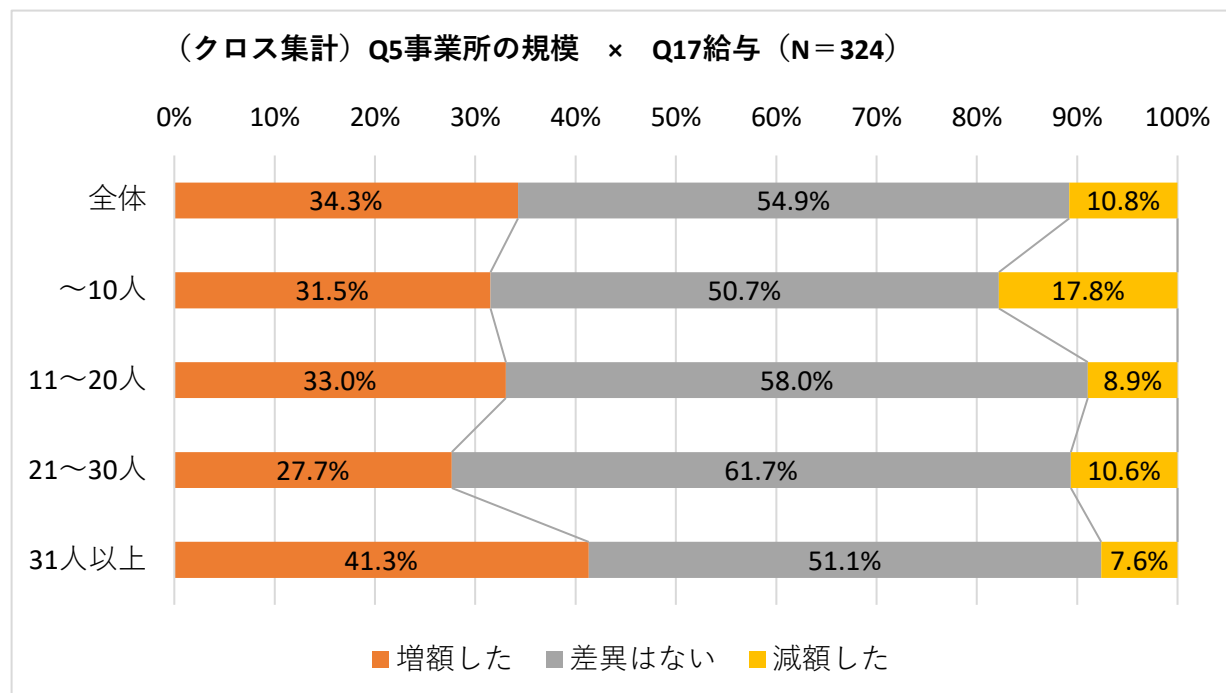




(図8)



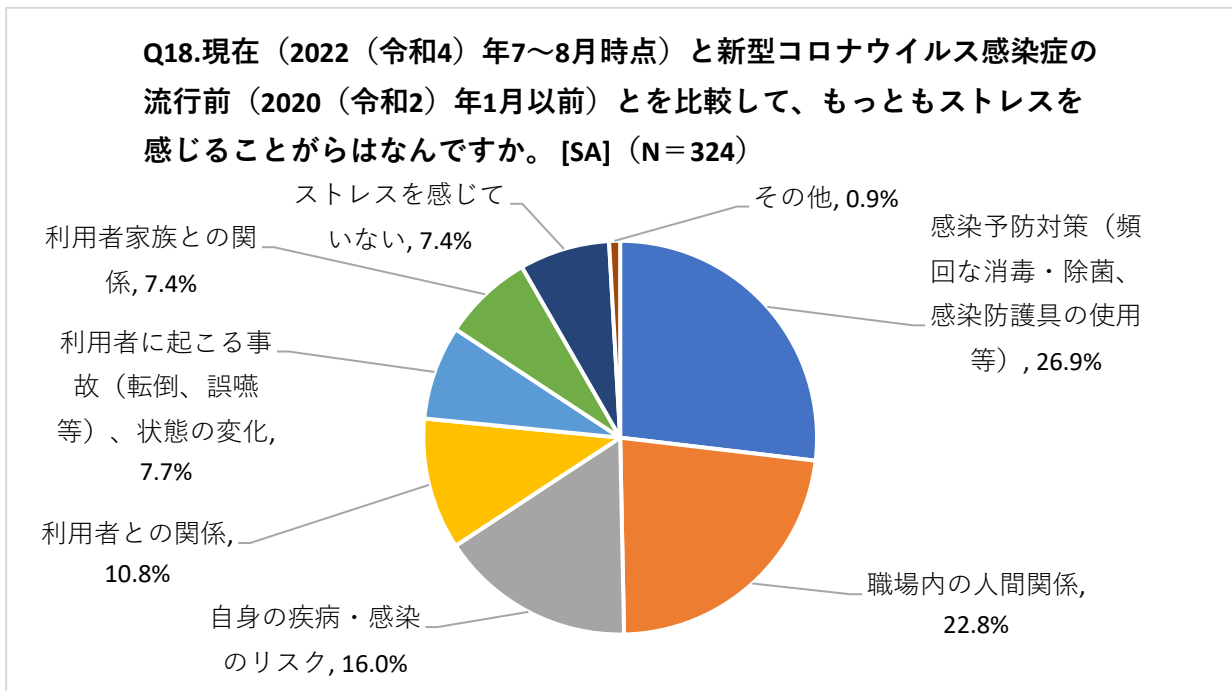
(図9)



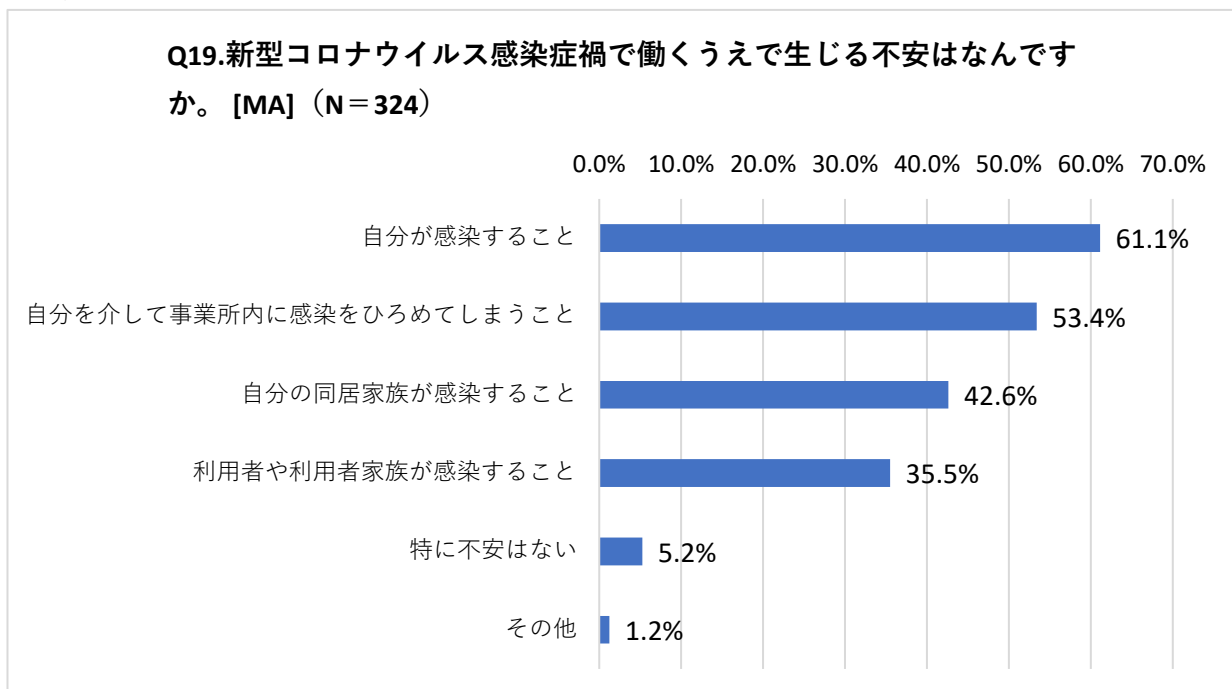
**(6) ストレスを感じることでと新型コロナウイルス禍で働くうえで生じる不安**

もっともストレスを感じることでとについては、「感染予防対策（頻回な消毒・除菌、感染防護服の使用等）」が26.9%ともっとも多いことから、感染予防対策などの業務量が増加したことによる身体的負担の増加が考えられる（図10）。また、新型コロナウイルス感染症禍で働くうえで生じる不安については、「自分が感染すること」が61.1%ともっとも多く、「自分を介して事業所内に感染をひろめてしまうこと」の53.4%、「自分の同居家族が感染すること」の42.6%となっていることから、感染リスクへの不安による精神的負担の増加が考えられる（図11）。〔設問18.19〕

(図10)



(図11)



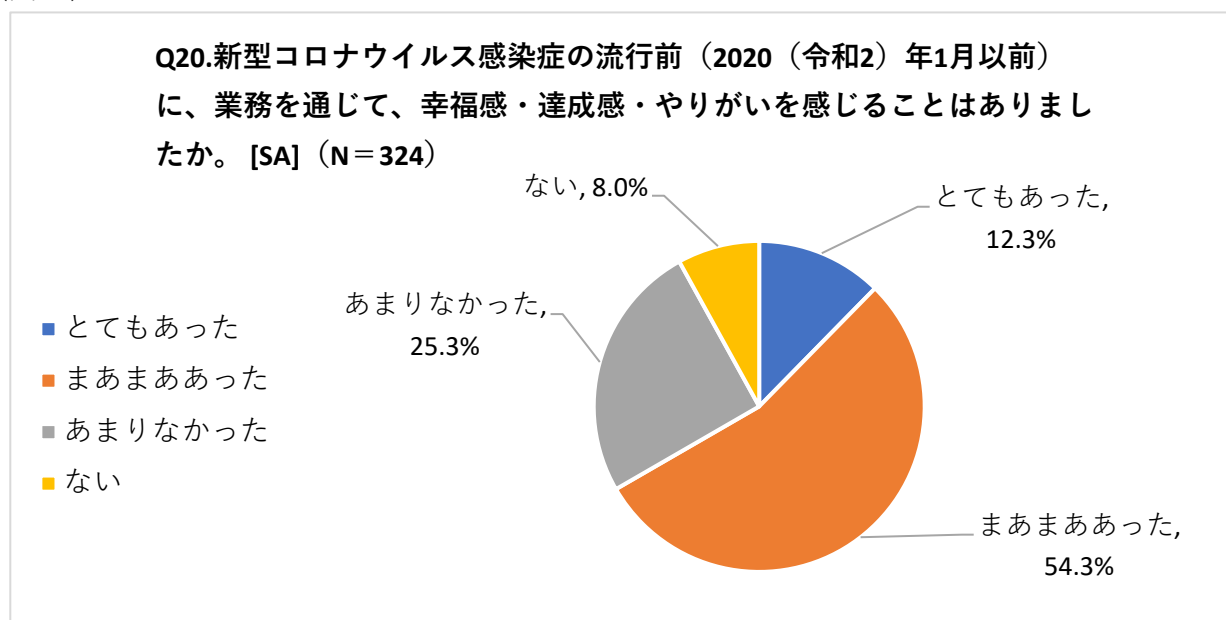
### (7) 新型コロナウイルス感染症の流行前後の幸福感・達成感・やりがい

業務を通じての、幸福感・達成感・やりがいについては、新型コロナウイルス流行前後ともに「まあまああった」が半数以上を占め、「あまりなかった（あまりない）」、「とてもあった（とてもある）」とつづいた（図12.14）。なお、「あまりない」「ない」の割合は、新型コロナウイルス流行前後ともに、約3割を占めていた。

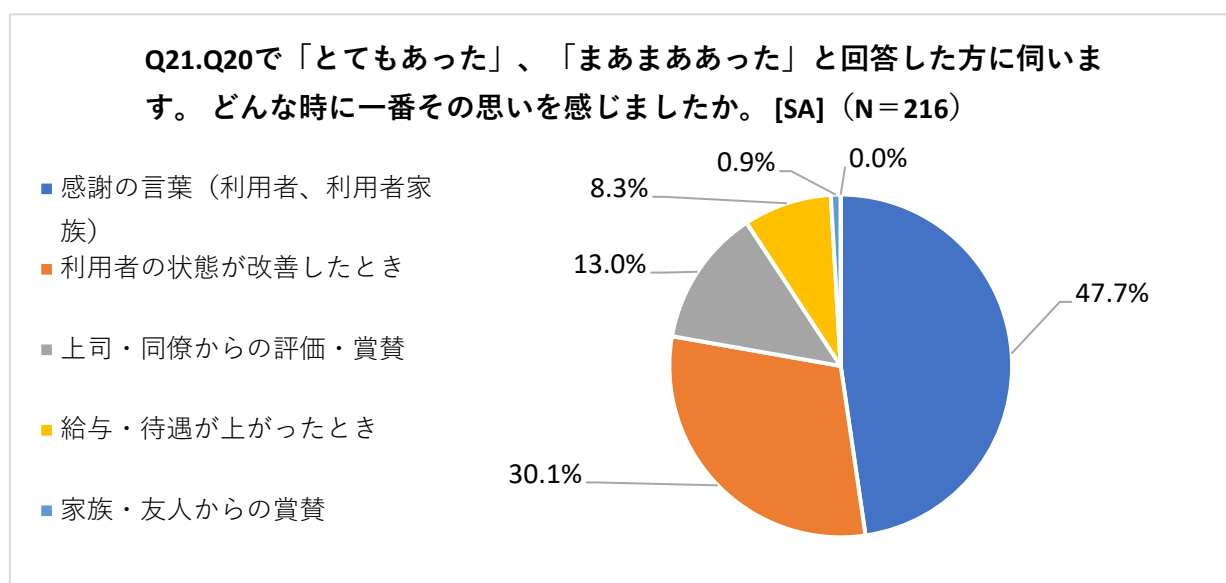
また、「とてもあった（とてもある）」「まあまああった（まあまあある）」と回答した方に、「どんな時に一番その思いを感じたか」についての回答を得たところ、こちらも、新型コロナウイルス流行前後ともに「感謝の言葉（利用者、利用者家族）」が約半数を占め、「利用者の状態が改善したとき」、「上司・同僚からの評価・賞賛」とつづく（図13.15）。

上記のことから、幸福感・達成感・やりがいは、流行前後で大きな差はみられなかった（表1.2）。[設問20.21.22.23]

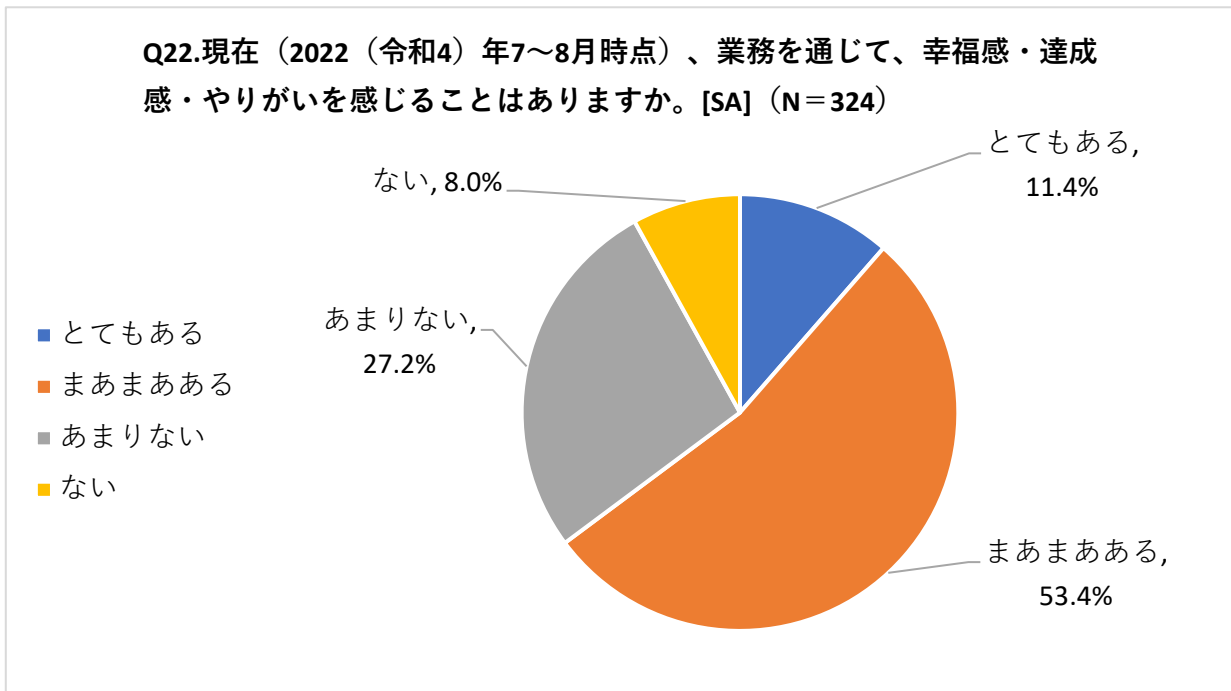
(図12)



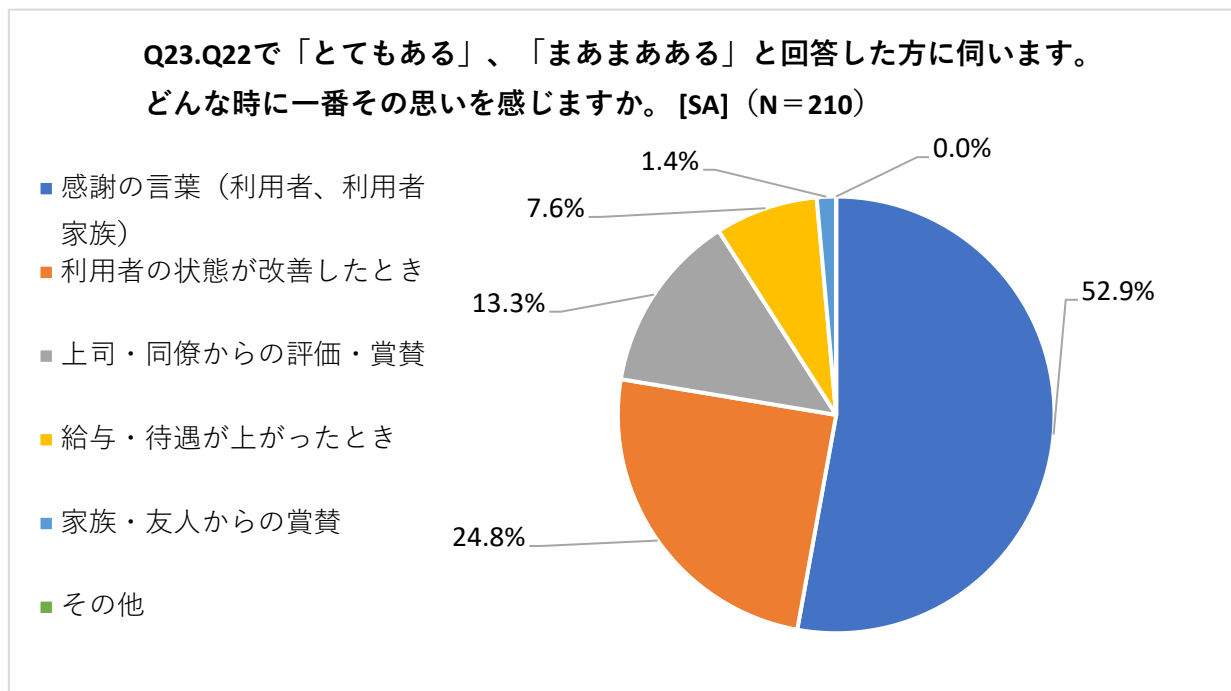
(図13)



(図14)



(図15)



(表1)

(Q20とQ22の比較) 幸福感・達成感・やりがいの変化

	Q20：流行前		Q22：流行後		増減 (流行後－流行前)
	N	%	N	%	%
とてもあった	40	12.3%	37	11.4%	-0.9%
まあまああった	176	54.3%	173	53.4%	-0.9%
あまりなかった	82	25.3%	88	27.2%	1.9%
ない	26	8.0%	26	8.0%	0.0%
計	324	100.0%	324	100.0%	0.0%

(表2)

(Q21とQ23の比較) 「とてもあった(ある)」「まあまああった(ある)」とを感じる場面の変化

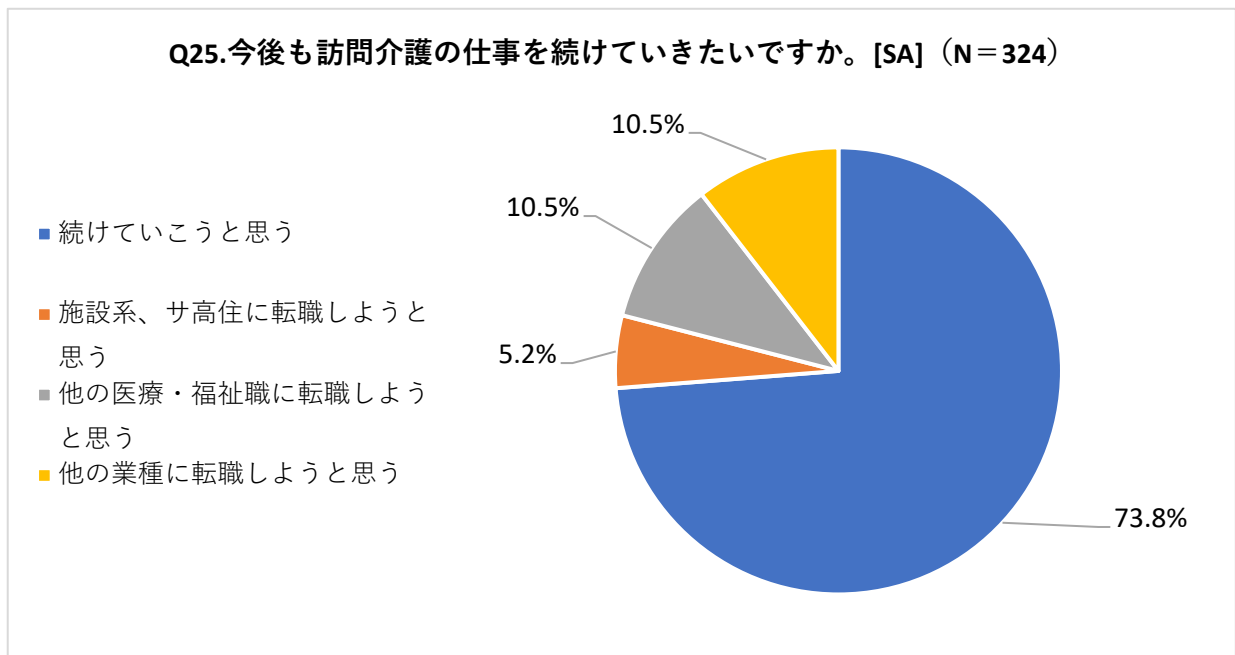
	Q21：流行前		Q23：流行後		増減 (流行後－流行前)
	N	%	N	%	%
感謝の言葉(利用者、利用者家族)	103	47.7%	111	52.9%	5.2%
利用者の状態が改善したとき	65	30.1%	52	24.8%	-5.3%
上司・同僚からの評価・賞賛	28	13.0%	28	13.3%	0.4%
給与・待遇が上がったとき	18	8.3%	16	7.6%	-0.7%
家族・友人からの賞賛	2	0.9%	3	1.4%	0.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	216	100.0%	210	100.0%	0.0%

### (8) 今後の訪問介護継続の意向と理由

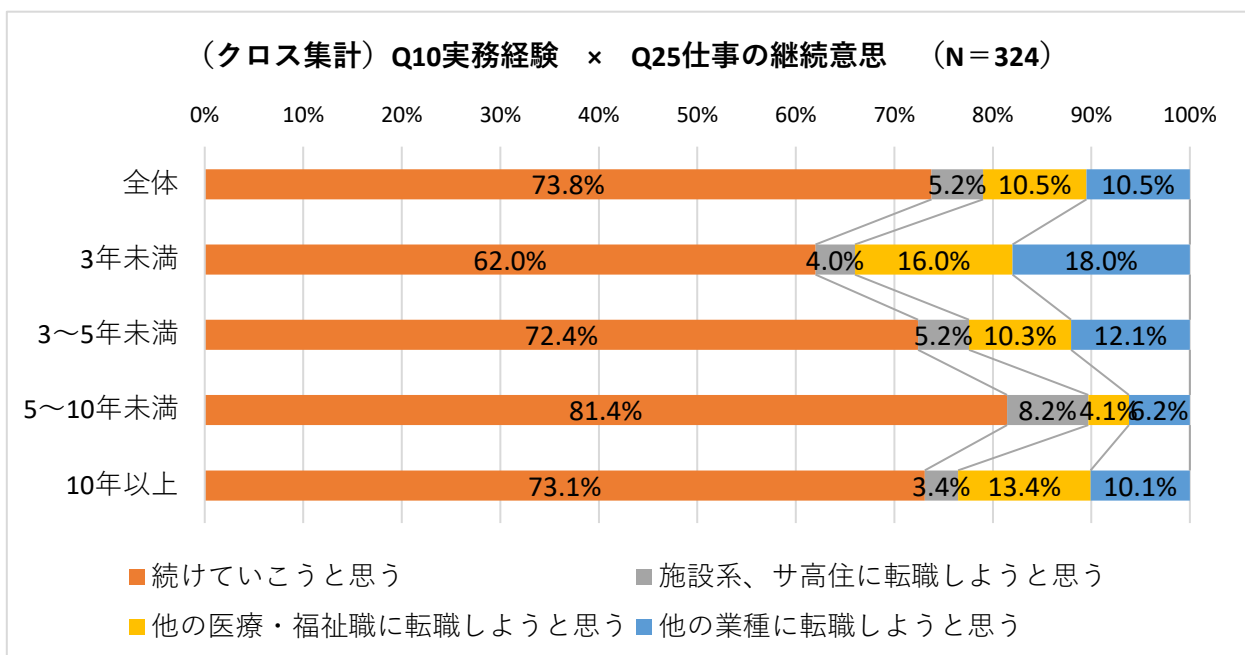
今後も訪問介護の仕事をしていきたいかについては、「続けていこうと思う」(N=239)が73.8%ともっとも多く(図16)、実務経験が長くなるにつれて仕事の継続意思は高くなるが10年以上となると少し低下した(図17)。続けていこうと思う理由として、やりがいや生きがい、使命感を感じているといった回答が約4割を占めた(表3)。

「他の業種に転職しようと思う」(N=34、10.5%)の理由としては、身体的・精神的負担が大きいといった回答が最も多く、次いで、給与が低いといった、回答が多く見られた(表4)。「設問25.26」

(図16)



(図17)



(表3)

「続けていこうと思う理由」 (N=239)

	N	%
・ やりがいや生きがい、使命感など	87	36.4%
・ 今の職場や仕事に満足している (利用者やスタッフとの人間関係や職場環境が良い、今の仕事や職場になれているなど)	60	25.1%
・ 年齢的に転職を考えていない。介護の仕事しかできない、他に仕事がないなど	19	7.9%
・ 給与が良い、安定した仕事だから	9	3.8%
・ 特に無し、その他	64	26.8%
合計	239	100.0%

(表4)

「他の業種に転職しようと思う理由」 (N=34)

	N	%
・ 身体的・精神的負担が大きい等	13	38.2%
・ 給与が低い	11	32.4%
・ 他にやりたいことがある	2	5.9%
・ 職場環境が悪い	2	5.9%
・ 人間関係に疲れたなど	1	2.9%
・ その他	5	14.7%
合計	34	100.0%

#### 4.参考

本調査の報告書 (総頁51頁) を掲載しています。

本概要版とあわせてご確認ください。

URL

<https://nenrin.or.jp/research/pdf/research/20230419.pdf>

QRコード



コロナ禍における訪問介護従事者の業務負担・ストレスや就労意識に関する調査  
とりまとめ報告書【概要版】

---

令和5（2023）年3月発行

発行 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル6階

TEL : 03-5470-6751

FAX : 03-5470-6762

---

不許複製